

授業区分	授業科目	単位	2単位
教養科目	世界の歴史と文化	授業の方法	講義
サブタイトル	フランス文化を垣間見る ～歴史を受け継いだフランス～	開講時期	後期
履修条件		出席要件	2/3以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
小島 慶一	社会福祉学科	研究室に掲示してあります。	
授業の目標			
<p>今日、日本の外国関係事情は、英語を中心とする経済分野に傾いており、精神性を忘れていた感がある。英語圏とは別にヨーロッパ、特に文化的遺産を多く残しているフランスについておおまかな知識を得、日本人の立場を再考する。</p>			
授業の内容			
<p>現代のフランスをまずは概観する。1613年10月特使長倉常長がローマを目指し外交の旅に出た。当時のフランスはキリスト教を抜きにしては語れない。ルネサンスと宗教改革、教会の勢力、聖堂、国王と大名、そしてフランス革命、やがてナポレオンが登場する。</p>			
授業計画			
<p>現代編 1 通貨、レストラン、モード 2 フランスという国、ヴェルサイユ 3 プロヴァンス、ロワール地方 4 ヴァカンス、家族と結婚 5 カトリックの国、ヨーロッパとフランス</p> <p>歴史編 6 中世、教会 7 中世、教会 8 国王と大名 9 国王と大名 10 ルネサンスと宗教改革 11 古典主義の世紀 12 18世紀 13 革命の業績 14 ナポレオン 15 ナポレオン</p>			
テキスト	なし		
参考書	<p>事典 現代のフランス、大修館書店 地球の歩き方、フランス、ダイヤモンド社 更に必要があれば授業中に指示する。</p>		
教材	地図を用いる		
評価の要点		総合評価の割合	
<p>講義形式なので、ノートをしっかりとして欲しい。そのなかから出題される。欠席が多いとつまづくので気をつけること。出欠状況、定期試験による総合評価を行う。</p>		定期試験	100%
		(出席状況を含む)	
履修上の注意事項や学習上の助言			
フランスに興味があること。同時に言葉に関心があれば更により。私語は厳禁。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教 養 科 目	世界の歴史と文化	授業の方法	講義
サブタイトル	異文化をつなぐ英語 ~ 複眼思考のすすめ ~	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
川島 光子	外国語学科	研究室の扉に掲示してあります。	
授業の目標 文化には同じ部分も異なる部分もあります。異なる部分だけでなく、同じ人間として似ている部分にも光を当てたいと思います。外国人と日本人、それぞれが自分の持つ文化を下敷きにして、見るもの・聞くことを評価し判断します。個人のレベルでも、自分の育った文化を背負っています。各人の考えを尊重し、複眼的に物事を見られるようにしたい、というのがこの授業の目標です。			
授業の内容 まず、日本に住んでいる、または日本に住んだことのある外国人が、日本での見聞を英語で書いたエッセイを読みます。次に内容理解、語彙構築に進み、ペアまたはグループの協働学習で意見交換をします。最後にインターネット検索などの課題を出します。ただ出席しているだけでない、授業への積極的参加を強く求めます。			
授業計画 1 自己紹介、Introduction とシラバスの説明、授業の進め方を確認 2 Traispotting 3 Pedal Power 4 Crime and Punishment 5 Power to the People 6 Rise of the Vending Machines 7 Lovely Day, Isn't It? 8 The Graduates 9 A Change for the Worse 10 The Land of the Loudspeaker 11 Responsible Sleeping 12 That's Rubbish! 13 What's Your Type? 14 Is Begger Always Better? 15 定期試験			
テ キ ス ト	Chris Willson; Your Japan, My Japan: 南雲堂、1600円+税		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
1	パラグラフを中心とする読解力がついているか	定期試験	80 %
2	既習の知識をモニターとして働かせることができるか	協働活動参	20 %
3	応用的な問題に対処する力がついているか	加度	
4	語彙の構築力、語法の成熟度はどうか		
5	協働作業に積極的に参加しているかどうか		
履修上の注意事項や学習上の助言 習得の場であるとともに、自学自習の成果を踏まえた協働学習の場とします。予習・復習を励行してください。特に、インターネットを利用した情報収集は授業理解の助けとなります。情報を鵜呑みにするのではなく、critical reading が大切です。			

授 業 区 分	授 業 科 目		単 位	2 単 位
教養科目	世界の歴史と文化		授業の方法	講義
サブタイトル	ギリシア神話～ヨーロッパ文化の根と花を知ろう～		開講時期	後期
履 修 条 件			出席要件	4/5
担当教員氏名		所 属	オフィスアワー	
中村 七重		英米文化学科	研究室に掲示	
授業の目標 聖書と並んで、ヨーロッパ文化の源流と言われるギリシア神話の知識を身につけること。そして、その影響が現在もなお大きく深く及んでいることを理解することが目標である。ヨーロッパ文化を理解するために欠かすことの出来ない基礎学習を行う。				
授業の内容 夜空に輝く星、四季を彩る草花、空の鳥、野の動物にまつわるギリシアの物語を紹介していく。同時に、それらの物語を題材とした絵画・彫刻の鑑賞も行う。ヨーロッパの都市や美術館を訪ねるときに役立つ知識を習得する。				
授業計画 1. 基礎知識の学習（ギリシア神話とは何か、その成立の歴史、名称など） 2. 世界創造神話からオリンパス12神の誕生まで、 3～8. 12神の物語、 9. その他の神々、 10～12. 英雄の物語（ヘラクレス、ペルセウス、テセウスなど） 13～15. ギリシア悲劇（オイディプス王、オレスティアなど）				
テキスト	使用しない			
参考書				
教 材	美術作品のカラーコピーを配布する（人数が多いときは、OHPを使用する）			
評価の要点			総合評価の割合	
期末試験はレポート。自分自身の考えを、自分の言葉で書くこと。授業内容を自分のものとして理解しているかどうかを評価する。			小テスト	30 %
			定期試験	70 %
				%
				%
				%
履修上の注意事項や学習上の助言 予備知識の有無は全く関係なし。質問はいつでも大歓迎します。				

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	日本の伝統と文化	授業の方法	講義・演習
サブタイトル	「読み聞かせ」や「リーダースシアター」をやってみよう	開講時期	後期
履 修 条 件	小学校教員コースを優先	出席要件	2 / 3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
原 妃 裳 子	児童学科	教育課程研究室	
授業の目標 読書離れと言われて久しいが、少しでも読書に興味関心を持つための一つの方法として読み聞かせやリーダースシアターについて学ぶ。さらに自分たちでグループを作り、練習をし合ったり、発表会をし合ったりして楽しむ。			
授業の内容 1.読み聞かせやリーダースシアターの意義について考える。 2.グループに分かれて読み聞かせに挑戦し、発表し合って楽しむ。 3.グループに分かれてリーダースシアターに挑戦し、発表し合って楽しむ。			
授業計画 1、ガイダンス、自己紹介と抱負、グループ作り 2、読み聞かせやリーダースシアターの意義やねらいについて 3、読み聞かせに挑戦するための計画を立てよう。 4～5、第1回 読み聞かせ・交流会 6～7、第2回 読み聞かせ・発表会 8、リーダースシアターの手法について学ぶ。 9、リーダースシアターに挑戦するための計画を立てよう。 10～12、リーダースシアター・交流会・発表会 13、読み聞かせ・リーダースシアターを実際に行っている方の話を聞こう。 14、地域の教育力（図書ボランティア等）を生かした読書指導について 15、まとめの評価			
テキスト	・教師の用意した資料 ・絵本や読み聞かせ用の本を2～3冊、グループごとに買う（2000～2500円）		
参考書			
教材			
評価の要点		総合評価の割合	
読み聞かせ、リーダースシアターの練習・発表会のために協力し合い、前向き・積極的に取り組んだか。		・練習への取り組み・発表の態度・出席 ・レポート・感想等	50 % 50 %
履修上の注意事項や学習上の助言 ・希望者が多い場合は、優先順位に従って調整することがある。 ・学年を超えて、協力し合い、自分たちで創り上げていく積極性を望む。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	日本の伝統と文化	授業の方法	講義
サブタイトル	与謝野晶子から学ぶ女性の生き方	開講時期	後期
履 修 条 件	日本の素晴らしい女性表現者晶子の 生き方に興味のある学生希望	出席要件	2/3
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
長江 曜子	生涯教育文化学科	研究室 3508 に掲示します。	
授業の目標 与謝野晶子の人生と文学を学ぶ事によって、真の日本の女性の生き方、賢さを学ぶことを目標とする。			
授業の内容 生涯に 11 人の子を産み育て 1 万 2 千首の歌を詠み 500 篇の評論を書き、源氏物語の口語訳をし、文化学院で教員として次世代を育てた晶子の評論を読み、生き方を学ぶ。			
授業計画 1. 授業のガイダンス 2. いまなぜ与謝野晶子なのか？ 3. 与謝野晶子の人生と文学 4. 「女も同じく人である。」平等という視点 5. 「君死にたまふことなかれ」を読む 6. 「君死にたまふことなかれ」を読む 7. 女性と仕事「女性の独立自営」を読む 8. 女性と仕事「女性の独立自営」を読む 9. 「婦人と思想」を読む 10. 学ぶ事の意味とは 11. 「女らしさとは何か」を読む 12. 「女らしさとは何か」を読む 13. 本当の女らしさ、人間らしさとは 14. 本当の女らしさ、人間らしさとは 15. 21 世紀に生きぬく女性とは？			
テ キ ス ト	特になし。そのつどプリントを配布する。		
参 考 書	授業の進度によって、そのつど紹介する。		
教 材	特になし。		
評価の要点		総合評価の割合	
レポート提出。 ”与謝野晶子の女性像から学んだこと”について 400 字詰め原稿用紙 3 枚以上にまとめて提出する事が大切です。		授業への参加 度	40 %
		レポート	60 %
履修上の注意事項や学習上の助言 毎時間、楽しく晶子の書き残したエッセイを学び、新しい女性の生き方のヒントをつかんで下さい。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	日本の伝統と文化	授業の方法	講義
サブタイトル	考古学で語る古代東国史	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
松尾 昌彦	日本文化学科	研究室(3316)に掲示	
授業の目標 古墳時代の研究成果を元に、物質資料から歴史を復元するという考古学の方法を学ぶ。			
授業の内容 武器・武具・馬具などの古墳副葬品の分析を通して、考古学的な手法による政治史へのアプローチの方法を検討する。具体的には、東海地方以东の東日本を対象に、ヤマト王権による東国支配の実態解明を試みる。			
授業計画			
1. ガイダンス(考古学の方法) 2. 古墳時代論の軌跡 3. 古墳時代論と東国古代政治史論 4. 古墳時代前期首長の性格(1)―副葬銅鏃からの検討― 5. 古墳時代前期首長の性格(2)―墳頂部多葬古墳からの検討― 6. 武蔵における事例研究 7. 科野における事例研究(1)―善光寺平南部地域― 8. 科野における事例研究(2)―下伊那地域― 9. 総における事例研究(1)―馬具の流入と展開― 10. 総における事例研究(2)―横穴式石室と石材交流― 11. 古墳時代東国支配の諸段階(1)―前期― 12. 古墳時代東国支配の諸段階(2)―中期― 13. 古墳時代東国支配の諸段階(3)―後期― 14. まとめ 15. 定期試験			
テキスト	適宜プリントを配布する。		
参 考 書	授業時に指示する。		
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
1. 定期試験 = 筆記試験による。		小レポート	30 %
2. 毎時間、講義内容の理解度を確認するため、小レポートの提出を求める。		定期試験	70 %
履修上の注意事項や学習上の助言 受講態度を重視する。			

授業区分	授業科目	単位	2単位
教養科目	自然界と科学・技術	授業の方法	講義と実習
サブタイトル	花の秘密を調べよう～植物と人間の生活～	開講時期	後期
履修条件	身の回りの植物に興味・関心があり、 調べてみる意欲があること	出席要件	4/5以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
津幡 道夫	児童学科	研究室前に掲出	
授業の目標 植物に興味と関心を持って具体的に調べることを通して、植物の形態やその利用についての基礎的な教養を高める。			
授業の内容 顕花植物の科ごとに、花のつくりや人間の生活の中での利用について調べたり、イラストで表現したりする。			
授業計画 1 ガイダンス 科目の目標、内容、方法、計画、評価について 2 植物と人間の生活 概観 3 キク科 花のつくりと利用 4 ナス科 花のつくりと利用 5 セリ科 花のつくりと利用 6 ウリ科 花のつくりと利用 7 アオイ科 花のつくりと利用 8 ミカン科 花のつくりと利用 9 マメ科 花のつくりと利用 10 バラ科 花のつくりと利用 11 アブラナ科 花のつくりと利用 12 タデ科 花のつくりと利用 13 サトイモ科 花のつくりと利用 14 イネ科 花のつくりと利用 15 植物と地球環境 未来の人間の生活の展望			
テキスト	スケッチブック(B5判) 科目名、学生番号、氏名を明記し各自が持参 植物図鑑 適当なものがあれば持参すること		
参考書			
教材	視聴覚教材、印刷教材 適宜、提供する		
評価の要点		総合評価の割合	
植物の形態と生態についての素養の深化の状況 各回の授業で作成するイラストやレポートへの取り組みの意欲等の状況		イラストや スケッチへ の取り組み	60 %
		定期試験	40 %
履修上の注意事項や学習上の助言 日頃から食事に使われている植物や通学途上に目に付く植物に興味と関心を持って、観察しておくといよい。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	自然界と科学・技術	授業の方法	講義
サブタイトル	細胞死の機構	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
加納 和孝	人間栄養学科	研究室 3902	
授業の目標 私たちの身体は膨大な数の細胞で構成されている。それらの細胞はある場合には外敵と戦って、また寿命が来て、あるいは新しい細胞に座を譲るために細胞死を起こしている。この現象を理解することを目的とする。			
授業の内容 生体を構成する物質、細胞の構造を易しく説明し生物への理解を深める。その後、私たちが常日頃食べているもの、服用している薬剤、身の回りにある様々な物質が意外に簡単に細胞死を起こすことを説明してゆく。			
授業計画			
1. ガイダンス 2. 身体を構成する成分(その1) 3. 身体を構成する成分(その2) 4. 身体の構造：細胞 1 5. 身体の構造：臓器 6. 身体の構造：器官 7. 細胞分裂の機構 8. 細胞死の機構：受容体 9. 細胞死の機構：細胞内情報伝達 10. 細胞死の機構：様々な場合 11. 細胞死の機構：動物以外では 12. 私たちの身体にとっての細胞死 13. 細胞死とガン細胞 14. 細胞死と疾病 15. まとめ			
テキスト	特に用いない		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
1. 出席が不足している場合には試験を受けさせない。		小テスト	30 %
2. 定期試験、時々行う小テストの成績を大学の評価基準の沿って評価する		定期試験	70 %
			%
			%
			%
履修上の注意事項や学習上の助言 予習等は必要ないが、授業中の目に余る私語、徘徊などがあった場合は退席させることがあり、当該講義は欠席扱いとする。			

授業区分	授業科目	単位	2単位
教養科目	現代社会の諸問題	授業の方法	
サブタイトル	自分とメディアのかかわりを考えよう	開講時期	後期
履修条件		出席要件	2/3以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
柴山 英樹	児童学科	研究室(3112)に掲示してあります	
授業の目標 様々なメディアと社会のかかわりを踏まえながら、メディアの由来や作用について説明ができる。また、現代社会の現状を理解し、これからのメディアとのかかわりのあり方について考えを述べるができる。			
授業の内容 雑誌やテレビ、パソコンから携帯電話まで、多様なメディアが溢れる現代社会の現状を踏まえながら、そのようなメディアの由来や作用、変革の可能性について考えていく。ときどき少人数で話し合う場を設けます。			
授業計画			
1.ガイダンス 2.メディアとは何か—生活の中のメディアを探そう 3.メディア自分史の作成—メディアが人間に与える影響について考えてみよう 4.文字—文字と絵の違いについて考えてみよう 5.新聞・雑誌—いろんな新聞や雑誌を読み比べてみよう 6.電話—黒電話から携帯電話に変化してきたことで何が変わったのだろうか 7.映画—映像と映像をつなぐ技法について考えてみよう 8.テレビ—テレビは真実を伝えているのだろうか 9.ファッション—人はなぜ服を着るのだろうか 10.博物館—「展示」の力とは何だろうか 11.インターネット—ネット上の自己と普段の自己の違いについて考えてみよう 12.ケータイ—身体の一部になったメディアについて考えてみよう 13.テレビゲーム—ゲームをするのはひまつぶしなのだろうか 14.メディアリテラシー—自分とメディアのかかわりについて考えてみよう 15.試験			
テキスト	プリントを配布し、必要に応じてOHC、VTR、コンピュータなどを使用します。		
参考書	吉見俊哉『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話』(有斐閣、2004)		
教材			
評価の要点		総合評価の割合	
授業への参加度、レポート、期末試験などを勘案して総合的に評価します。 授業で扱ったテーマについて、レポートを提出していただきます。 期末試験では、メディアの由来や作用に関する理解度を問う問題及びメディアと社会のかかわりに関する論述形式の問題を出題します。		レポート	20%
		定期試験	80%
履修上の注意事項や学習上の助言			
・身近なメディアに着目し、自分とメディアのかかわりについて考えてみよう。あなたの知識や情報はあ る限られたメディアから作られていませんか。			

授 業 区 分	授 業 科 目		単 位	2 単 位								
教 養 科 目	現 代 社 会 の 諸 問 題		授 業 の 方 法	講 義								
サ ブ タ イ ト ル	身 近 に あ る 社 会 学 「 こ れ っ て 学 問 な ん だ ! 」		開 講 時 期	後 期								
履 修 条 件			出 席 要 件	2/3 以 上								
担 当 教 員 氏 名		所 属	オ フ ィ ス ア ワ ー									
川 口 一 美		社 会 福 祉 学 科	研 究 室 に 掲 示 し て あ り ま す									
授 業 の 目 標												
<p>ちょっとしたことでも「どうしてだろう」と考えること、また、いろいろな角度の視点から物事を見ることができるようになる。また授業を通して意識的に自分の生活を分析し、自分と社会のつながりを意識する方法・社会学を身につけることができる。</p>												
授 業 の 内 容												
<p>社会の中でおきている事柄を取り上げ、それらを確認する方法や社会学的視点を学ぶ。そこから自分と社会の結びつきを理解するきっかけを見いだします。また、対人関係における観察眼を養います。課題提出や意見発表を通し自己の基礎を作ります。</p>												
授 業 計 画												
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス（シラバスを持参してください） 2. こんな事が学問になるの？－最近気になっていること－ 3. 授業項目を考えよう。 4. 社会とはなんだろう？－みんなと私－、家族 5. 現実（行為・コミュニケーション）今ここでおきていること 6. コミュニケーションとは何か（体験してみよう） 7. 生活とは何か。幸せってなんだっけ？ 8. 若さと老い。普通と普通じゃないこと 決め手は何か 9. 自分・女性・アイデンティティ。私は誰？私は私 10. 身近なものから社会が見える 11. 社会学とは何か 12.13.14. 興味を社会学する 15. ノートテキスト完成 <p>なおこのシラバスは案であり、2回目の授業で学生の興味により組みかえをする場合があります。</p>												
テ キ ス ト	<p>特に指定しない。 授業単元事に学生は興味がある事柄の資料を選んで持参する。（雑誌、新聞、本、写真のコピーなど） なお、必要に応じてプリントは授業時に配布予定。</p>											
教 材												
評 価 の 要 点			総 合 評 価 の 割 合									
<p>この授業は 1/3 以上欠席すると失格となります。 自分の作るノートファイルがテキスト代わりになるので、授業事にまとめておくこと。 毎回小テスト（確認）があります。 参加意欲・姿勢を持つてのぞむこと。</p>			<table border="0"> <tr> <td>・ 授業での小テスト(ほぼ毎回の確認テスト)</td> <td>20 %</td> </tr> <tr> <td>・ 課題レポート</td> <td>20 %</td> </tr> <tr> <td>・ 自己評価</td> <td>10 %</td> </tr> <tr> <td>・ ノートテキストの作成</td> <td>50 %</td> </tr> </table>		・ 授業での小テスト(ほぼ毎回の確認テスト)	20 %	・ 課題レポート	20 %	・ 自己評価	10 %	・ ノートテキストの作成	50 %
・ 授業での小テスト(ほぼ毎回の確認テスト)	20 %											
・ 課題レポート	20 %											
・ 自己評価	10 %											
・ ノートテキストの作成	50 %											
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 上 の 助 言												
<p>参加型授業のためその意図をくんで、題材持参、意見発表等すること。 ノートテキストを作成するため、バインダーもしくはファイルを用意すること。（初回に説明します）</p>												

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	現代社会の諸問題	授業の方法	
サブタイトル	時事問題に強くなるう	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
早坂 明彦	現代ビジネス学科		
授業の目標 テレビ・ラジオのニュースや新聞で頻繁に使用されている，現代を理解するための「キーワード」を調べ，読み，話すことにより，現在の政治状況，経済，社会情勢，国際関係に関心を持ち，理解を深め，時事問題に関する一般教養を身につける。			
授業の内容 テキストである「朝日キーワード2007」に掲載されている項目を割当て，学生は「現代用語の基礎知識」や「イミダス」などを利用し調べ，テキストの担当のページを読み，調べてきた内容を発表し，他の学生から質問を受け，討論をしていくことによって，受講している学生全員の時事用語，時事問題に対する理解を深める。また，人前で話すという練習，自分の発表に対する質問に的確，迅速に答えるという練習も合わせて体験し，プレゼンテーションの技法も学ぶ。学生一人当りの発表は15～20分位とする。			
授業計画 1 回目 授業方法の説明，割当てを決める，巻末のベーシックワードの説明。 2 回目 政治に関する事項。 3 回目 政治に関する事項。 4 回目 経済に関する事項。 5 回目 経済に関する事項。 6 回目 経済に関する事項。 7 回目 社会に関する事項。 8 回目 暮らしに関する事項。 9 回目 マスコミ・広告に関する事項。 10 回目 環境に関する事項。 11 回目 労働に関する事項。 12 回目 国際に関する事項。 13 回目 国際に関する事項。 14 回目 政治・経済・社会・環境・労働・国際に関するベーシックワード。 15 回目 政治・経済・社会・環境・労働・国際に関するベーシックワード。 学生の発表，学生同士の討論，教員の補足説明・まとめという形をとる。			
テキスト	朝日新聞社編『朝日キーワード2007』朝日新聞社，2007年。		
参 考 書	現代用語の基礎知識，イミダス，知恵蔵，広辞苑など		
教 材			
評価の要点	総合評価の割合		
	筆記試験	50	%
	発表	50	%
履修上の注意事項や学習上の助言 授業回数の1/3以上を欠席した場合は失格。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	現代社会の諸問題	授業の方法	
サブタイトル	日本女性はどのような愛や性や仕事に生きてきたのでしょうか	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
津田 満璃	外国語学科	研究室に掲示	
授業の目標 日本の短編に登場する女性像を通して日本現代文化はどのような歴史をたどったのかを知ろう。			
授業の内容 今期は 1970 年代の短編群を中心に読みます。70 年代はどんな時代で、日本女性はどのような愛や性や仕事に生きてきたのでしょうか。作家の生の体験から生まれた作品群から、私たち日本女性の現代文化史を読み解きます。			
授業計画			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業シラバス紹介 ・ 吉田知子、『無明長夜』 ・ 古井由吉、『杳子』 ・ 宮原昭夫、『誰かが触った』 ・ 郷静子、『レクイエム』 ・ 山本道子、『ベティさんの庭』 ・ 森敦、『月山』 ・ 坂田寛夫『土の器』 ・ 日野啓三『あの夕陽』 ・ 林京子『祭りの場』 ・ 中上健次『岬』 ・ 村上龍、『限りなく透明に近いブルー』 ・ 三田誠広、『僕って何』 ・ 池田満寿夫、『エーゲ海に捧ぐ』 ・ 宮本輝、『蛍川』、等々 			
テキスト			
参 考 書	1970 年代の日本史と上記作品群を読んでおくことが望ましい。		
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
毎回授業内レポート。 期末レポート。		毎回授業内レポ ト	50 %
		期末レポート	50 %
履修上の注意事項や学習上の助言 上記作品群から少なくともどれかを、又、その作品や作家について書かれた評論を数冊は読んでレポートの参考にすること。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	現代社会の諸問題	授業の方法	講義
サブタイトル	年少少年と非行（少年達の幸せを求めて）	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2 / 3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
柴田 省三	保育科	研究室（3204）	
授業の目標 授業の目標 最近はショッキングな内容の年少非行のケースがマスコミで取り上げられている。しかし年少非行というのはこういった例外的なケースばかりではない。そこで年少非行全般について基本的なことを勉強することを目標とする。			
授業の内容 授業の内容 非行とは何か、非行の原因にはどんなものが考えられるか、その実態はどのような状況にあるのかについてまず勉強する。そして処置については二つの大きな流れである児童相談所を中心とした処遇と家庭裁判所を中心とした処遇について、その関係施設も含めて勉強する。			
授業計画 1. ガイダンス 2. 非行とは何か 3. 非行の原因について 4. 非行の実態について（その□） 5. 非行の実態について（その□） 6. 非行児の処遇（児童相談所を中心とした処遇について） 7. 非行児の処遇（養護施設、自立支援施設について） 8. 非行児の処遇（家庭裁判所を中心とした処遇について） 9. 非行児の処遇（初等、中等の少年院について） 10. 非行児の処遇（特別少年院、医療少年院、少年刑務所について） 11. 家庭内暴力について（原因の分析） 12. 家庭内暴力について（具体例と処遇） 13. 残された問題点の考察 14. 参考ビデオ視聴 15. 期末試験			
テキスト			
参考書			
教 材	教材 VTR、プリント配布		
評価の要点		総合評価の割合	
評価の要点 この授業は年少非行について興味、関心を持った学生のための授業である。従って、参考資料や参考ビデオを見た後、どういうことを学んだか、誤解があったとすればそれは解けたか、どんな問題点を発見したか等書いてもらうこともある。従って「ただ聞くだけの授業のつもりで選択したのに」と後で後悔しないようにしてもらいたい。		レポート	20 %
		定期試験	80 %
履修上の注意事項や学習上の助言			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	現代社会の諸問題	授業の方法	講義
サブタイトル	<ひきこもり>現象をさまざまな視点からとらえよう	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
檜垣 昌也	介護福祉学科	研究室に掲示してあります	
授業の目標 <ひきこもり>という現象を題材に、多角的な視点から現象をとらえることを目標とする。			
授業の内容 毎回、<ひきこもり>を題材としたビデオや資料を紹介します。 また、これまでの<ひきこもり>に関する文献などを紹介し、社会が<ひきこもり>をどう捉えたかを紹介していきます。			
授業計画			
1.オリエンテーション 受講希望者の<ひきこもり>イメージ 2.<ひきこもり>とは 3.<ひきこもり>とは 4.<ひきこもり>イメージの研究 5.<ひきこもり>イメージの研究 5.行政の取り組み（不登校との関連） 6.行政の取り組み（厚労省の取り組み） 7.医療との関連 8.医療との関連 9.教育との関連 10.教育との関連 11.福祉との関連 12.福祉との関連 13.社会学的視点 14.社会学的視点 15.支援の現状とこれから			
テ キ ス ト	初回授業で<ひきこもり>に関する文献を紹介する。 その中で一冊以上を選び毎回持参すること（10分間読書をします）。 参考文献は授業で紹介する 必要に応じてプリントは授業時に配布。		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
1/3 以上欠席で失格。 毎回小レポートがあります。 参加意欲・姿勢を持ったのぞむこと		授業での小レ ポート	20 %
		定期試験	50 %
		レポート	30 %
履修上の注意事項や学習上の助言 私語厳禁。毎回 10 分間の読書時間を設けます。 読書用図書を持参（初回に紹介したものから選択する）。 持参しない場合は欠席とします。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	人間の心と生き方	授業の方法	講義
サブタイトル	世界で活躍できる女性になるための知識とマナー	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	4/5 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
島田 薫	現代ビジネス学科	研究室(3A05)に掲示	
授業の目標 グローバル化の時代が到来となり、女性の生き方が大きく変わってきた。社会の仕組みを学び、日本人として世界に誇れる国際マナーを身に付けることを目的としている。			
授業の内容 日本の社会の隅々まで広がった国際化と大きく変わる社会の構造を知り、情報社会を生き抜く力をつける。また、日本だけでなく国際社会で通用するマナーを学ぶ。			
授業計画			
1 ガイダンス (授業計画と自己紹介) 2 日本の社会の仕組み 3 働き続ける女性の人生 4 国際化とはなにか 5 アメリカとアメリカ人 6 アジアについての知識 7 世界から見た日本人 8 世界で羽ばたく日本女性 9 基本のマナー 10 国際社会で通じるマナー 1 11 国際社会で通じるマナー 2 12 ヨーロッパのフィニッシングスクール 13 好かれる人になるために 14 ケーススタディー 15 まとめ			
テキスト	必要な資料はプリントして配布する。		
参考書			
教 材			
評価の要点			総合評価の割合
学んだことをいかに実践するか。また、理解を深められたかをレポートを作成する。	レポート		100 %
履修上の注意事項や学習上の助言			
毎回の授業は自分で勉強するための指針である。興味をもったら自分で情報を集めることがより自分自身の成長を促す。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	人間の心と生き方	授業の方法	講義
サブタイトル	成人期の発達を考える	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
長田 由紀子	介護福祉学科	研究室(3A01)に掲示	
授業の目標 成人期に生じるさまざまな問題と心の発達について理解を深め、自分自身の将来の展望について考える。世代間交流を通して他の世代に興味を持ち、自分の世代とは異なる視点について理解し、共感性を養う。			
授業の内容 研究データや映画、文学作品等を通して成人期の様々な問題に触れ、問題の生じる背景を理解するとともに、心の発達について考える。意見の発表やディベートを通して、視野を広げる。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 生涯発達の考え方 3. 発達段階と発達課題 4. アイデンティティの確立 5. 結婚と家庭 6. 専業主婦とは何か 7. 子育てと親の成長 8. 中高年期のストレス 9. 更年期の諸問題 10. 親の介護と老後の問題 11. 老年期を前にして 12. これからの私			
テキスト	プリント		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
毎回のレポート提出状況とその内容 - 問題の分析・考察の深さ等		レポート	50 %
授業最終日における授業内試験 - 学んだ内容に対する理解度		試験	50 %
履修上の注意事項や学習上の助言 毎回、学んだことを土台に自分の考えをまとめたレポートを提出します。この授業は、一方的に講義を聞く場ではなく、自分の頭で考え意見を発表する場、他者の意見を聞き考えを深める場ととらえてください。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教 養 科 目	女 性 と 子 ど も ・ 生 活	授 業 の 方 法	講 義
サ ブ タ イ ト ル	女 性 と 子 ど も と た ば こ : 社 会 を た ば こ の 害 か ら 守 る た め に	開 講 時 期	後 期
履 修 条 件		出 席 要 件	2/3 以 上
担 当 教 員 氏 名	所 属	オ フ ィ ス ア ワ ー	
袁 輪 眞 澄	人 間 栄 養 学 科		
授 業 の 目 標			
社 会 に お け る 女 性 と し て , (1) た ば こ と は 何 か を 理 解 す る , (2) た ば こ の 健 康 影 響 を 理 解 す る , (3) た ば こ に 対 す る 対 策 を 理 解 す る , (4) た ば こ 対 策 に お け る 女 性 の 役 割 を 考 え る 。			
授 業 の 内 容			
ま ず , こ の 教 養 科 目 で ど の よ う な こ と を 期 待 し て い る の か を , 学 生 か ら 聴 取 す る 。 可 能 な 限 り そ れ に 沿 っ た 講 義 を 行 い , 講 義 の 内 容 に つ い て デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 行 う 。 最 後 に は , 印 象 の 強 か っ た 事 項 に つ い て の レ ポ ー ト を ま と め る 。			
授 業 計 画			
1.ここの教養科目でどのようなことを期待しているのか。 2.たばこの歴史 3.たばこ煙の成分 4.健康影響 5.健康影響 6.受動喫煙とは 7.未成年者の喫煙 8.女性の喫煙 9.禁煙法と禁煙支援を理解する 10.たばこ産業の本質 11.たばこ対策 12.世界のたばこ対策 13.未成年者喫煙の防止 14.総合討論 15.レポート作成			
テ キ ス ト	宮島秀紀．まだ，タバコですか．講談社現代新書，2007. ¥740+税		
参 考 書			
教 材			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 の 割 合	
印 象 の 強 か っ た 事 項 に つ い て , ど う し て な の か が 簡 明 に 書 か れ て い る か を 評 価 す る 。		レポ-ト	100 %
履 修 上 の 注 意 事 項 や 学 習 上 の 助 言			
で き れ ば 皆 さ ん と の デ ィ ス カ ッ シ ョ ン を 楽 し み た い と 思 い ま す 。 積 極 的 に 発 言 す る 楽 し み を も 味 わ っ て く だ さ い 。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	女性と子ども・生活	授業の方法	講義
サブタイトル	障害への理解 - 絵本に描かれる「障害児」 -	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	2/3 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
大熊 光穂	保育科	研究室に掲示してあります	
授業の目標 障害児・障害者といわれる子どもたち、人たちについて考えてみることで、自分自身の見方、考え方を振り返ってみることを目標にします。			
授業の内容 小さい子どもにとっても障害を理解する一助となるような絵本が数多く出版されています。受講生が障害について考える入口としてこれらを紹介しながら、障害についての理解を深められればと思います。			
授業計画 1. ガイダンス 2. 障害って何? (「子どものためのバリアフリーブック」他) 3. 知的障害を知る-1- (「ぼくのお兄ちゃん」他) 4. " -2- (「わたしたちのトビアス」他) 5. 身体の障害を知る-1- (「ぼくたちのコンニャク先生」他) 6. " -2- (「さっちゃんのまほうのて」他) 7. 自閉症を知る-1- (「たっちゃんぼくがきらいなの」他) 8. " -2- (「自閉というぼくの世界」他) 9. 養護学校を知る-1- 10. " -2- 11. 視覚・聴覚の障害を知る (「ぼくのだいじなあおいふね」他) 12. ADHDを知る 13. LDを知る 14. 再び障害って何? 15. 期末試験 (授業内レポート)			
テ キ ス ト	テキストは特に使用しません。VTR、OHC、その他必要に応じてプリントを配布します。		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
授業の中で、感想文や小レポートなどの提出を頻繁に求めます。このほかに、期末試験として最終回に授業内レポートを課します。		授業での感想文、小レポート	50 %
		期末試験(授業内レポート)	50 %
履修上の注意事項や学習上の助言 授業計画は順序、内容等を変更する場合があります。絵本を使用しますが、授業の内容は大変地味なものです。コツコツと真面目に考えたい方の受講を求めます。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	女性と子ども・生活	授業の方法	講義
サブタイトル	ファンタジーの世界 ~イギリス児童文学の子どもたち~	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	4/5 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
飯島 とみ子	総合文化学科	研究室に掲示してあります。	
授業の目標			
長い歴史を持つイギリスの児童文学作品をいくつか取り上げて、児童文学の歴史を学び、その魅力を探る。			
授業の内容			
児童文学の宝庫といわれるイギリスの児童文学の変遷をおおまかに辿る。大人の作品であった『ロビンソン・クルーソー』や『ガリバー旅行記』がなぜ子供たちに愛されるようになったのかを探り、その後、ファンタジー作品をいくつか取り上げる。一部を原文で読み、その楽しさを味わう。			
授業計画			
1 イギリス児童文学の歴史 2 『ロビンソン・クルーソー』 Robinson Crusoe by Daniel Defoe 3 『ガリバー旅行記』 Gulliver's Travels by Jonathan Swift 4 『幸せの王子』 The Happy Prince by Oscar Wilde 5 ファンタジーの系譜 6 『不思議の国のアリス』 Alice's Adventures in Wonderland by Lewis Carroll 7 『ライオンと魔女』 The Lion, the Witch and the Wardrobe by C.S.Lewis 8 『ピーターラビット』 The Tale of Peter Rabbit by Beatrix Potter 9 『床下の小人たち』 The Borrowers by Mary Norton 10 『ピーターパン』 Peter Pan by J.M.Barrie 11 『クマのプーさん』 Winnie-The-Pooh by A.A.Milne 12 『トムは真夜中の庭で』 Tom's Midnight Garden by Philippa Pearce 13 作品ビデオ 14 児童文学の子どもたち 15 まとめ			
テキスト	随時プリントを配布する。		
参 考 書	『現代イギリス児童文学』 神宮輝夫 理論社		
教 材	プリント、ビデオ		
評価の要点			総合評価の割合
児童文学の作品をひとつ読んで、その時代の児童観や特徴をレポートにまとめて提出することを求める。それを中心に授業への参加度などを総合的に判断して評価する。	原文読解	20	%
	レポート	80	%
履修上の注意事項や学習上の助言			
取り上げるすべての作品の一部を原文で読むので、予習を課す。			

授業区分	授業科目	単位	2単位
教養科目	芸術とスポーツ	授業の方法	演習
サブタイトル	絵本づくりと視覚世界	開講時期	後期
履修条件	絵本制作に興味のある人	出席要件	4/5以上
担当教員氏名	所属	オフィスアワー	
小泉 卓	児童学科	研究室に掲示してあります。	
授業の目標			
1. 絵本と漫画の視覚的特性を理解する。 2. エリック・カールの日本語版と英語版の差異などを理解する。 3. 絵本の制作方法を理解し、絵本を自ら制作する。			
授業の内容			
<知識> 1. 絵本と漫画の視覚的特性 2. ピーター・ラビットとミッフィーの差異 3. エリック・カールの日本語版と英語版の差異 4. 絵本制作の方法 <表現> 1. コラージュ、絵具の技法、色鉛筆の技法、人物表現体験 2. 絵本制作			
授業計画			
1. ガイダンス(シラバス使用) 2. 漫画の視覚的特性 3. 絵本の視覚的特性 4. ピーター・ラビットとミッフィー、エリック・カールの日本語版と英語版の比較 5. 絵具の技法、色鉛筆の技法、コラージュ技法、人物表現 6. 絵本制作の方法 7. 絵コンテ(各ページのラフ・スケッチ) 8. 絵コンテ完成。版の大きさと技法の確定・絵本制作 9. 制作 10. 制作 11. 制作 12. 制作 13. 制作 14. 表紙の制作(オリジナルのハード・カバーの表紙を作成する→本体と合体) 15. 合評			
テキスト	適宜、パワーポイントを使用したり、プリントの資料を配布する。また、資料として絵本を使用する。		
参考書			
教材			
評価の要点		総合評価の割合	
評価は、《授業の目標》を基準として行う。具体的には目標の1と2はレポートで、目標の3は作品と制作ファイルで評価を行う。作品は授業内容(絵本の視覚性)を反映するとともにオリジナリティーが求められる。制作ファイルは、作品の絵コンテや、制作プリント、また自分が集めた資料などをファイルし、作品と一緒に提出する。レポートが鉛筆書きであったり未提出であったりした場合は、不可となる。		レポート	20%
		作品・ファイル	80%
履修上の注意事項や学習上の助言			
オリジナリティーが求められるので創造的想像力を豊かに働かせてもらいたい。作品の内容も、絵本の<視覚性>とは何かを理解し、絵本を制作することが求められる。授業の内容を制作に反映することを心掛けてもらいたい。			

授業区分	授業科目	単位	2単位
教養科目	芸術とスポーツ	授業の方法	講義
サブタイトル	日本の音楽教育における音楽	開講時期	後期
履修条件		出席要件	2/3以上
担当教員氏名	所属	オフィスアワー	
重嶋 博	音楽文化学科	研究室に掲示してあります	
授業の目標 日本の音楽教育は、明治時代に、いわゆる西洋芸術音楽を中心として始まり現在に至っています。この約120年の間に音楽教育における音楽（教材または楽曲、音楽作品）にもたくさんの変化が見られます。その変化と現状を音楽を視聴しながら探ります。			
授業の内容 日本の明治・大正・昭和・平成の時代の小・中学校の音楽の授業で用いられた音楽（教材または楽曲、音楽作品）について、時代や社会の変化に触れながら、主にCDなどの音やVTR/DVDなどの映像を通して鑑賞し、理解を深めます。			
授業計画 1 ガイダンス 2 むすんでひらいて 3 おぼろ月夜 4～5 へいたいごっこ 6～8 小学校の音楽 9～11 中学校の音楽 12～14 民族音楽・世界の音楽 15 期末試験			
テキスト	必要に応じて印刷資料を配付します。		
参考書	重嶋博『新音楽授業の構造と展開』音楽之友社、2001 重嶋博『小学校音楽科指導法』教育芸術社、2000 文部省『小学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社、平成11年 文部省『中学校学習指導要領解説尾楽編』教育芸術社、平成11年		
教材			
評価の要点		総合評価の割合	
講義への取り組み、小テスト、期末試験。		講義への取り組み	10%
		小テスト	20%
		期末試験	70%
履修上の注意事項や学習上の助言 視聴に集中する。 真剣にかつ楽しく取り組む。			

授 業 区 分	授 業 科 目	単 位	2 単 位
教養科目	芸術とスポーツ	授業の方法	実技
サブタイトル	舞踊文化の歴史を訪ねて ~ヨーロッパを中心として~	開講時期	後期
履 修 条 件		出席要件	4/5 以上
担当教員氏名	所 属	オフィスアワー	
岸田 眞弓	保育科	研究室に掲示してあります	
授業の目標 舞踊は人類の誕生とともに始まったといわれる。その舞踊を、ただ単に人間の本能的な運動として取り上げるのではなく、芸術として人間の社会的形成の重要な要素の一つとして、発達してきた過程を理解する。			
授業の内容 それぞれの時代における舞踊の位置づけについて、理論と実技を通して学習する。また、民族舞踊を行ううえでの基本的な用語、ステップ、ポジションを理解する。			
授業計画			
1.オリエンテーション 2.原始社会の舞踊 3.古代の舞踊 4.中世の舞踊(1) 5. " (2) 6.基本的な用語、ステップ、ポジション 7.中世から現代に伝承されている舞踊(1) 8. " (2) 9.ルネサンス期の舞踊(1) 10. " (2) 11. " (3) 12.ポーランドのナショナルダンス(1) 13. " (2) 14. " (3) 15.まとめと試験			
テキスト	必要に応じてプリント資料を配布する		
参 考 書			
教 材			
評価の要点		総合評価の割合	
レポート提出、授業への取り組み、実技試験等、総合的に評価する。		レポート	40 %
		実技	60 %
履修上の注意事項や学習上の助言			
実技を中心に進めます。運動しやすい服装で臨んでください。また、この授業での舞踊は、パートナーを必要とするものを中心に行いますので相手への思いやりを心がけてください。			